



タイ・タマサート大学でのセミナー参加者。タマサート大学学長（中央）が参加し各参加者に対して修了証書を手渡した。

NPO便り第4号に寄せて：

第4号の「イファットだより」は今後も継続して本紙を通してニュースレターとしてNPO活動の様子をお伝えします。

*タイ、チェンマイ大学工学部に客員教授として活躍されている我がNPO会長伊藤信孝先生がタマサート大学、東アジア研究所所長ソムチャイ先生と相互協力に関する「覚え書き」を締結しました事は前回の第3号でご報告します。その第一回活動として同東アジア研究所との共催でのセミナーの状況を報告します。なお、今年度開始しました、中央アジア・コーカサス地域別研修「農業機械化システム」コースについて報告します。
編集文責：辻本壽之

目次

1. はじめに
2. タイにおけるセミナー報告（東アジア研究所、タマサート大学との共催）
3. タイのセミナー続き
4. 中央アジア・コーカサス地域別研修「農業機械化システム」コースの研修報告

イファット

だより

～農民参加なくして農業なし～

1. はじめに

“イファットだより”第4号をお送りいたします。現在タイ、チェンマイ大学で客員教授として活躍されております会長伊藤信孝のご尽力により本NPOとタマサート大学との相互協力に関する「覚え書き」を8月4日に締結しました。その最初の協力活動と

して今年3月17日及び18日、タイのタマサート大学・東アジア研究所においてセミナー（以下ワークショップと言う）を開催しました。主催(Organizer)は、本NPO法人国際農民参加型技術ネットワーク（IFPat）及び東アジア研究所・タマサート大学である。共催として(In cooperation with)はタイのチェンマイ大学工学部、カセサート大学、タマサート大学及びシヤム・クボタ(SIAM・KUBOTA)タイが参加し盛大に行われました。今後の活動に弾みがついたと思っています。参加者は約50名近く参加しました。タイ国内の研究者、大学教授、農業機械関係者等多くの参加者を得ました。海外からはブータン、スリランカ、ベトナムからの参加者を得ました。なお、今年度は辻本壽之理事が、中央アジア・コーカサス地域別研修で「農業機械化システム」コースを担当しました、その報告を致します。

2. タイにおけるセミナー報告(東アジア研究所、タマサート大学との共催)

セミナー表題は「小規模農家への小型農業機械の開発」を通して「小規模農家に適合した農業機械化システムへの提言」並びに「バイオエコ燃料の実用化への提言」とした。

日程は2009年3月17日（火）（ワークショップ開催）2009年3月18日（水）（見学会）参加者の宿泊は、タマサート大学、東アジア研究所（日本研究センター、日本政府が1970年代福田赳夫首相時代に供与した建物である）内の宿泊所に宿泊した。開催場所は、タイ、バンコック、タマサート大学、東アジア研究所 Institute of East Asian Studies, Thammasat University, Rangsit Campus, Pathum Thani 12121, Thailand

発表論文は英文とした。発表方法は英語での発表、主にパワーポイント

を用いて行う。

セミナーの趣旨、内容として以下のことを目的に開催した。

農業はその生産量、労働人口の割合から見て国の基幹産業と位置付けられている。農作業を担う農業機械類の最終利用者である農家・農民等にとっては、経済的に見合う、かつ操作運転が簡単で、しかも耐久性の高い農業機械が必要であり、そのために各国における農業機械研究開発体制、国内生産体制、普及訓練体制が現在よりもさらに一層強化されなければならない。同時に、地域農村に対するエネルギー利用についても石油価格の高騰と排出炭酸ガスによる地球温暖化に鑑み、カーボンニュートラルの観点からバイオマスエネルギーが注目を浴びている。農産物（米も含めて）からのバイオエタノール生産並びにバイオエコ燃料生産の可

2. タイでのセミナー(続き)

能性は国益にもなり、その生産、適正な利用と普及には技術の確立、地域の協力が必要である。農業面からCO₂削減、エネルギー・地球温暖化問題に寄与することができる。簡易なバイオエコ燃料生産供給施設を対象地域に設置し、地域の活性化を図り農家の収入を増やすことが可能であろう。このような観点から「小規模農家への小型農業機械の開発」を通して「小規模農家に適合した農業機械化システムへの提言」並びに「バイオエコ燃料の実用化への提言」としてタマサート大学、東アジア研究所において下記表題および日程を案としてセミナー(ワークショップ)を開催しました。ワークショップに関する事項としては、参加対象者は普及所の普及に携わる普及員を対象とする。参加費・宿泊(東アジア研究センターで対応可能—無料)企業展示を計画しサイアムクボタが参加してくれた。会場は(東アジア研究センター内の駐車場にて盛大に展示会を開催した。海外からの参加者はブータン、スリランカ、ベトナムからの参加者を得た。

英文案内は以下の通りである。

Agriculture is considered as one of the most important and essential main industries at national level in most of the countries from the viewpoints of total amount of the production and the farming population. Based on this background of situation, the agricultural machine equipped with economically reasonable price, simple and easy handling mechanism and higher durability is needed and desirable for the farmers. To meet these conditions the individual countries are going to strengthen the research and development, national agricultural production system, extension and training program.

On the other hand from the viewpoint of energy situation causing the problem of global warming in addition to the price up, the bio-ethanol production is now

closed up.

It is obviously understood that the possibility of producing bio-ecological fuel produced from bio-resources including agricultural food resources will be surely the benefit for the nation. The technology for bio-energy production and its appropriate utilization and extension must be completed in cooperation with the rural area. By the promotion and introduction of this program, the carbon dioxide production causing the global warming can be stopped. The establishment of simple bio-fuel station in the rural area can contribute to the income increase for farmers and it leads finally to the activation of the rural community.

Based on this standpoint the workshop is organized and held at The Institute of East Asian Studies, Thammasat University, Rangsit campus as shown below, focusing on: 1) The Development of Small Farm Machinery for Small Farmers and 2) The Proposal for Agricultural Mechanization System Suited for Small Farmers, 3) Proposal for Practical Application of Bio-eco Fuel and Its Technology Transfer and Extension.

Program

1. Title of Workshop: Appropriate Technology Development and Transfer for Small Scale Farm Mechanization and Bio-eco Fuel Production
2. Date and time
 March 17, 2009 (Tuesday) : Workshop
 March 18, 2009 (Wednesday) : Field trip



ワークショップ会場前の看板

3. タイでのセミナー(続き)



ワークショップでの発表風景



サイアムクボタがタイで普及している歩行用田植機



タイ製ハンドトラクター



見学会（農機具会社にて）



大型サトウキビ収穫機作業
(ブラジル製)

この度のワークショップはタイ国内より約50名の参加者を得た。

主な海外からの参加者は下記の通り。

1. ベトナムから
Dr.Ngyuen Hay, Vice Rector, Nong Lam University, Ho Chi Minh City
2. ブータンから
Dr.Hai Sakurai, JICA Expert and his 3 counterparts.
3. スリランカから
Mr. Yukio Hishida, SV, JICA and his counterpart
4. 日本から
前川孝昭先生：筑波大学名誉教授
伊藤信孝先生：NPO, IFPat 会長、チェンマイ大学工学部客員教授

辻本壽之：NPO, IFPat 理事

4. 中央アジア・コーカサス地域別研修「農業機械化システム」コース



平成20年度地域別研修 中央アジア・コーカサス地域別「農業機械化システム」コースを2008年12月7日より2009年3月7日まで実施しました。本コースの対象国である中央アジア・コーカサス地域各国は、旧ソ連に属しコルホーズ、ソホーズと呼ばれる集団農場体制の農業運営が行われてきた。多くの旧ソ連諸国での集団農場経営から自営農への移行が進められているが、集団型営農体制の解体に伴う諸問題が発生している他、ロシア人技術者の流出などによる技術レベルの低下などが起きている。特に、旧ソ連時代に供与された農業機械類は老朽化が進み適正に利用されていないのが現状である。日本はこれまで無償資金協力（2KR）（総額約150億円）で農業機械の供与を実施してきた。精度の高い日本製農業機械を用いた新たな自営の中小規模農家における農業機械化の推進が期待されるものである。研修の基本理念とし、研修員の中小規模農家向け農業機械の普及に係る知識と技能を向上させるとともに、中小規模農家を主体とする「協同」、「持続的利用」などといった事について研修員自身が体得し実行できるよう、研修コースを設計、運営を行った。具体的には、研修員が他の研修員や研修指導員及び外部講師などと深いレベルでの真剣な議論が出来るよう十分な討論の時間を配置する様に努めた。研修評価は高かった。

本技術研修は、短い研修期間であったが、研修員から高い評価を得た。研修の目的は研修員の中小規模農家向け農業機械の普及に係る知識と技能を向上させるとともに、中小規模農家を主体とする「協同」、「持続的利用」などといった事について研修員自身が体得し実行できるよう努めた。

研修を日本で実施する意義の一つは、日本の農業機械化の成功経験を学ぶことにある。本研修は日本の小規模農家の生活が農業機械化や農民の組織化などについて、どのように改善されてきたか、問題点も含めて日本の状況を学び、自国の状況と比較することを通じて、学ぶことが出来る。研修員が自国の農村開発に有用な手法、日本の農業機械化の歴史、技術的評価、勤勉さ、農作業の質の高さ、官民の協力体制の仕組み等について高い評価を示した。本研修は、研修員に対し非常に強いインパクトを与えた研修となった。



本NPOの活動に賛同して
くれる人の会員募集！連
絡は下記まで・・・

農民参加なくして農業なし！

NPO法人 国際農民参加型技術ネットワーク(IFPat)

319-0315 水戸市内原町1039-2

辻本壽之(Dr.Toshiyuki Tsujimoto)

電話 FAX 兼用

029(259)3720

Email: tsujimotoshi3@white.plala.or.jp



IFPat 国際農民参加型技術ネットワーク

